

2020年度 事業報告

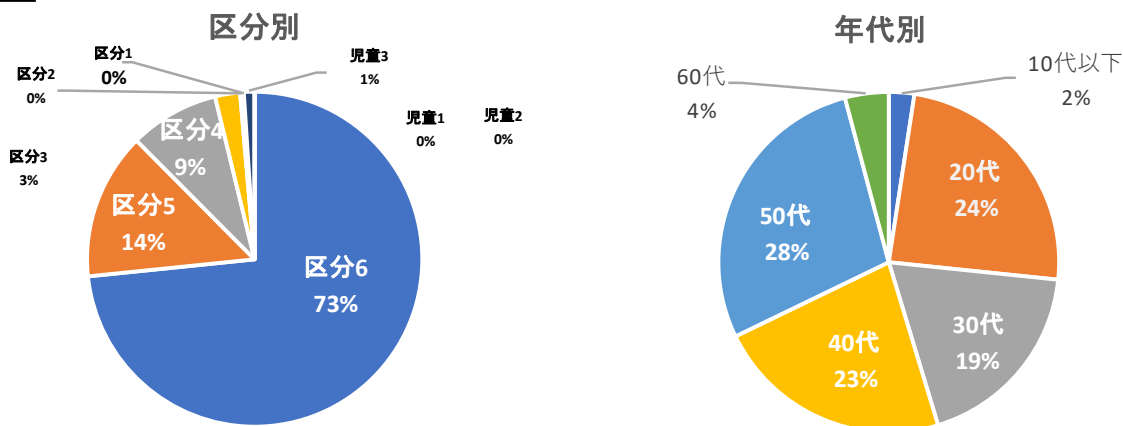
施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

1 利用状況

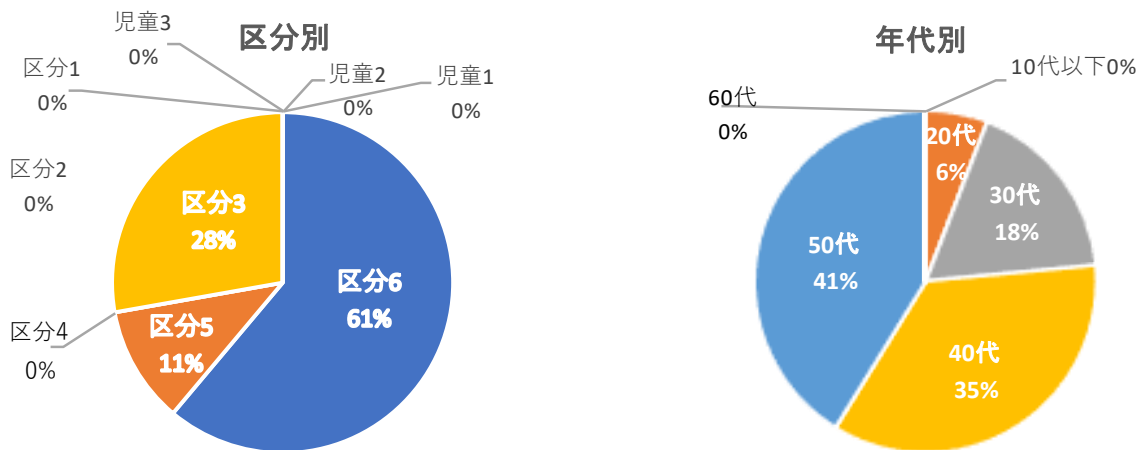
事業名		自立体験事業		短期入所事業		日中ショートステイ事業
		一般利用	短期利用	短期入所	緊急利用	
利用実績	利用定員(日)	3人	2人	2人	1人	1~2人
	利用件数(年)	4件	53件	298件	27件	232件
	利用日数(年)	964日	134日	872日	81日	232日

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令等の影響を受け、利用件数が減少している。

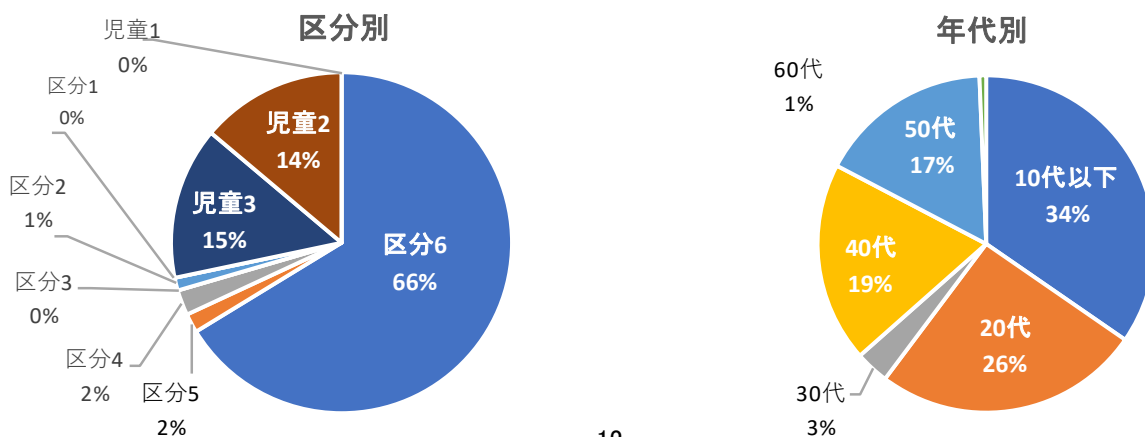
短期入所



緊急短期入所



日中ショートステイ



2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

- ① **自立体験事業（世田谷区独自事業）**
 一般利用・短期利用という異なる期間の中で、利用者それぞれの地域生活ニーズやライフステージに合った支援を展開した。
【一般利用（1か月以上1年以内）】4名が利用、うち1名が一人暮らし、1名が自宅にて復職、1名がグループホームでの生活に移行している。残り1名は現在一人暮らしを目指して、プログラムを行なっている。持病にて入院した利用者や、濃厚接触者となった利用者も出たが、支援の結果、それぞれ無事に地域生活に移行することができた。
【短期利用（2日以上1か月以内）】数年に渡る継続的な利用をされている利用者が多い。コロナ禍による利用落ち込みが顕著となったが、年度後半に向けて回復基調が見られている。
- ② **短期入所（緊急短期入所含む）事業（法内事業）**
 利用中はマンツーマンで介助者が付くことから、重度かつ細やかな配慮が必要な利用者の利用が多い。（障害支援区分6・児童3の利用者が7割以上）緊急短期入所の事由については、家族の入院や疾病が多いが、他にも家庭内トラブルなど多様な状況に対応している。トラブルでの入所時にも一時しのぎに終わらず、利用者を含む関係者全体にとっての解決につながるよう、事業所間連携を重視した。
- ③ **日中ショートステイ事業（なかまっち自主事業）**
 レスパイトや両親の仕事などによる利用が多い。短期入所と組み合わせて、より自由度の高い利用を可能にしている。

年間行事

月	内容	月	内容
4月	年度初めミーティング（4/1） 法人新人研修（4/24）	10月	BCP研修（管理者）（10/23） 医療的ケア研修（10/31）
5月		11月	
6月	リフト介助見学（6/15）	12月	社会的検査受検（12/3・7・8） 障害者施設職員職層研修（中堅）※web開催
7月	スタッフ会議（7/21）	1月	社会的検査受検（1/14）
8月	重症心障害児療育相談センター来所（8/27）	2月	
9月	施設長会（9/4） ごえんの会（9/8）	3月	法人全体研修「支援と記録」（3/2・5・8・9・11） スタッフミーティング（3/18） 年度末ミーティング（3/31）

(2) 地域交流

- ① **地域住民との交流・連携**
 定期開催していた「まどカフェキッチン／サロン」は、コロナ禍により今年度は開催することが出来なかった。
- ② **地域の関係機関との連携・交流**
 玉川エリア自立支援協議会・玉川支援ねっと（玉川地域の障害者施設等のネットワーク）に参加した。特に玉川支援ねっとに関しては、中心メンバーとして参画し、コロナ禍における利用者の変化や地域交流の在り方について、リモート会議で議論を行った。

③ 積極的な情報発信

新型コロナウイルスに対する運営対応を、ホームページを用いて情報提供を行った。また、なかまっちの自立体験終了後に地域で一人暮らしを行っている利用者と、コラム執筆についての打ち合わせを行った。

(3) 家族・関係機関との連携等

① 家族との連携

短期入所においては、利用毎に支援情報を更新しながら、適切な支援を行えるようにした。また、家族からなかまっちへの連絡シートの創設検討を行った。

② 自立体験室事業におけるケース会議の開催

コロナ禍により、ケース会議を主催する機会は減少したが、電話やリモート会議を通して、利用者支援の検討を行った。また、長期に渡り短期利用を利用している利用者・家族と、今後のプログラム策定に向けて、新型コロナ状況を勘案しながら、会議を行う準備を行った。

③ 相談支援事業との連携

自立体験室終了後、地域で一人暮らしを開始した利用者を相談室が引き続き支援するなど、施設の特徴を生かして支援を行った。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

コロナ禍により、ボランティア受け入れ数は減少したものの、年度後半より1名が月2回程度、浴室等の清掃を行った。

(5) 危機管理

① 新型コロナウイルス・感染症対応

「支援ガイドライン」「調理ガイドライン」を随時バージョンアップしながら、支援を継続した。世田谷区の社会的検査(PCR検査)の受検を複数回行った他、パーティションや空気清浄機の設置に加え、消毒液や手袋等の消耗品を拡充するなど、感染防護対策を行った。自立体験室利用者の発熱時には、ワークフローに基づき館内のゾーニング等、防護措置を取りながら運営を継続した。その他にも、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染防止に努め、職員の予防接種を実施した他、マニュアルや対応用品を更新した。

② 防災・減災

火災を想定し、利用者も参加した避難訓練を行った他、避難用具や防災食などの備品整備や、排水ポンプの交換を行った。また防災5分間チェックを月1回実施するなど、防災意識の定着を図った。懸案であったBCP(事業継続計画)に関しては、管理者が研修を受講し、その策定を行った。

③ 防犯

カメラ付きインターホン・防犯カメラを活用し、利用者や家族への便宜を図りながらも、防犯効果を高めている。

(6) 職員研修の実施

① 所内研修

コロナ禍により、集まって研修を受ける機会を設けることが難しい状況ではあったが、介護動画研修を導入し、全職員が随時介護技術を振り返り、学ぶ体制を構築した。

② 法人全体研修

「グループトーク：支援と記録」と題し、全常勤職員が、オンラインで各事業所の状況共有やディスカッションを行った。

③ **キャリアアップ研修**

世田谷区研修センターの実施する職層別研修に参加した他、事業計画や個別研修計画に沿った研修を受講した。その内容を各自が支援会議内で報告し、支援への反映を検討した。

⑤ **福祉動向の蓄積**

「支援情報ライブラリー」に国内外の障害支援情報の蓄積を行っている。また職員から提案があった自立支援のガイドブックを通して、支援団体とのコンタクトを取っている。

(7) その他

① **事故（アクシデント）…2件**

- ・利用者が夕食のスープで火傷を負う。
- ・ヘルパーが支援中に創傷を負う。

② **ヒヤリハット（インシデント）…36件**

- ・介助方法・服薬内容・コミュニケーションが不十分など。

③ **苦情…10件**

- ・ヘルパーの不適切な介助や言動によるもの（8件）
- ・事業運営のあり方について（2件）

3 重点課題と取り組み・成果

① **自立体験事業の展開**

→ **一般利用**…「支援マップ」を策定し、一人の利用者の状況を複数の視点から時系列で記録・検討を行うようになった。

短期利用…こまめなモニタリングや目標設定を課題とし、利用者にも理解がしやすいチェックリストを作成、それを基にヘルパー事業所とも連携しながら支援を行った。

② **非常勤職員の増員と支援方針の共有**

→ チラシや求人サイトにて継続的に求人を行い、必要なスキルを持った新規非常勤職員を4名採用できた。これにより、非常勤職員によるサービス提供比率を増加させることができた。同時に、勤務時間についてもより実態にあった算定方法を導入した。また月に一度「なかまっち掲示板」の発行を始めたことで、支援方針などを共有することができた。

③ **医療的ケアへの理解促進**

→ 常勤職員が医療的ケア研修を受け、その内容を職員に共有した。2021（令和3）年度も引き続き重点目標に掲げ、嘱託医・看護師と連携しながら具体的なケーススタディを行えるよう、検討を行った。

④ **チーム支援の推進**

→ 欠員であった常勤職員の採用が行えたことで、無理なくチームで支援できる環境が整った。始業時・終業時のショートミーティングを設けた他、これまで起こりがちであった支援の属人化解消に向けた取り組みとして、クラウドによる「支援メモ」を導入し、支援中の出来事や気付きを担当者が記録したものを、他の職員が随時確認することができるようにした。

⑤ **指定管理の受託**

→ これまでの実績と今後の方針を基に、2021（令和3）年度より5年間、なかまっちの指定管理者に選定された。